

5年1組 家庭科学習指導案

平成30年10月23日(火) 13:05~
 場所:家庭科室(南舎3階)
 授業者:後藤 裕子

- (1) ねらい 家族のためのゆで野菜サラダの野菜を選ぶ活動を通して、量や値段等の視点から野菜を選ぶことが大切であることに気づき、計画を立てることができる。
- (2) 評価規準 材料を選ぶときには、量や値段などを考えて選ぶとよいということを理解し、自分の家族のためのサラダの材料の選び方を工夫して考えている。【創意工夫】
- (3) 評価方法 プリントに、家族のためのゆで野菜サラダの材料をどういふ視点で選ぶかを考え、根拠を基に記述しているかを見届ける。(プリント)

1 題材名

『はじめてみようクッキング』

【B 日常の食事と調理の基礎】

2 指導の立場

(1) 題材観

本題材は、家族のためにゆで野菜サラダを作る。児童はそれぞれ家族構成が違うため、一人一人違うサラダを作ることになる。作る時に材料をそろえる必要があるが、その材料を選ぶ際、「じょうずに使おうお金と物」で学習した、商品を選ぶときの視点を基に考えていく。B 日常の食事と調理の基礎の学習の中で、既習の D 身近な消費生活で学んだことを生かすことができる題材である。

(2) 児童観

(3) 指導観

調理は児童の興味や関心が高い。調理の学習のスタートなので、安全で衛生的な調理ができるように、基本的な手順を掲示やプリント師範を通して、確実に指導する。

題材のねらいを受け、家族という相手意識をもち、家族の状況や好みなどに合わせて選ぶことができるように、前題材で学んだ商品を選ぶときの5つの視点、「量」「値段」「品質」「無駄なし」「好み」を導入時に確認し、その視点を使って選び方を考えるよう指導する。そのことにより、「してもらおう自分」から「できる自分」に近づくと考えられる。

3 本時の展開 (8/8)

	学習内容および学習活動	指導・援助(★高め合うための指導・援助)																
つかむ	<p>1 前時、授業で考えた家族のためのゆで野菜サラダの材料の確認をする。</p> <p>2 本時の課題を理解する。 家族のために作るゆで野菜サラダの材料の選び方を考えよう。</p> <p>・ゆで野菜サラダをおいしく喜んで食べてもらうために、野菜ってどんなふうに進んだらよいのだろう。</p>	<p>・前時の調理計画でゆで野菜サラダで使う材料を確認する。 <3つの見届ける一覽態を見届ける> ・今まで買い物をするときの意識調査の結果を見て、確認する。 ★「じょうずに使おうお金と物」の学習で学んだ商品を選ぶときの視点「量」「値段」「無駄なし」「品質」「好み」を確認し、押さえる。</p>																
深める	<p>3 共通の野菜であるキャベツの選び方について知り、自分の家庭にあった選び方を考える。(個人→全体)</p> <p>・ぼくは安いのが一番よいから、一番安い物にした。 ・キャベツが大好きだから大きい物にしたよ。</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>一玉</td> <td>半玉</td> <td>カット</td> </tr> <tr> <td>値段</td> <td>¥158</td> <td>¥88</td> <td>¥83</td> </tr> <tr> <td>重さ</td> <td>1200g</td> <td>600g</td> <td>150g</td> </tr> <tr> <td>品質</td> <td>愛知県</td> <td>愛知県</td> <td>愛知県</td> </tr> </table> <p>4 自分の選んだ野菜別グループに分かれて、野菜別の情報を見ながら、自分の家庭だったらと、根拠を示して考える。(個人→グループ→全体)</p> <p>・ブロッコリーは今の季節は少し高いので、小さめなものを選んでゆでようと思いました。(値段) (量) ・アスパラガスはメキシコ産が安かったです。たくさん使いたいで、メキシコ産のアスパラガスを使おうと思います。(品質) (量) (値段) ・大根は、大きいものにしました。うちの家はサラダ以外にも他の料理に使いそうなので、一本のものを買っても使えそうです。(家族) ・うちは国産をいつも選んでいるので、少し高いけど国産を選びました。(好み) (品質)</p>		一玉	半玉	カット	値段	¥158	¥88	¥83	重さ	1200g	600g	150g	品質	愛知県	愛知県	愛知県	<p>・キャベツの3つのタイプの情報を見て、自分の家庭に合うキャベツを選び、選んだ根拠を明確にするように促す。 ★視点シールで自らの視点を明確にした後、視点カードを使ってペアで視点を明確にしながら交流するように確認する。</p> <p>★視点シールで自らの視点を明確にした後、視点カードを使ってペアで視点を明確にしながら交流するように確認する。 <3つの見届ける一覽置状況を見届ける></p> <p>・選ぶ根拠を明らかにして、どうしてそれを選んだのか、仲間指導の中で確認する。 ・なかなか根拠を考えられない児童には、視点をもとに、選んでいくことや、キャベツの時にどんな視点で選んだか思い出しながら考えるように声をかける。 ・選んだ理由を交流する時に、重視した視点や根拠を話せるように声をかける。 ・野菜別の情報ボックスを用意する。「値段」「産地」等の情報と共の「量」を判断しやすいように、実物を用意する。</p>
	一玉	半玉	カット															
値段	¥158	¥88	¥83															
重さ	1200g	600g	150g															
品質	愛知県	愛知県	愛知県															
まとめ	<p>5 まとめる 野菜を選ぶときには、量や値段などを考えて選ぶとよい。自分の家族に合う野菜を考えて選ぶとよい。</p> <p>6 家で作るゆで野菜サラダの野菜は、どういふ視点で選ぶとよいか考え、計画表に書き込む。</p> <p>・家族のためのゆで野菜サラダをどういふ視点で選ぶか考える。 ・ペアで根拠をもって伝え合い、全体で交流する。 ・本時分かったことをワークシート表に記入し、ふり返りをする。計画表に選び方を書き込む。</p>	<p>・本時の野菜の選び方で分かったことをまとめる。 <3つの見届ける一覽置状況を見届ける> ・交流の後、家庭で作るゆで野菜サラダで使用する野菜をどんな視点で選んだか、確認と見届けを行う。 ・はっきり決められない児童に対して、個別に助言する。 ★本時の活動での学びや高まりを自覚させるために、ペア交流し、その後全体交流を行う。</p>																

4 研究内容との関わり

【研究内容Ⅰ】

②導入・課題化の工夫

前題材で学んだ商品を選ぶときの視点を確認し、家族により喜んでもらえるサラダ作りのための材料選びへの意欲と活動の見通しをもてるようにする。

【研究内容Ⅱ】

①関わりへの必然性を生むための工夫

実物のキャベツや野菜別の情報ボックスを用意し、児童が実際の物を見て、値段等の情報を得ることで、根拠をもつことができるようにする。

最初の交流がしやすいようにキャベツのみの交流を行うようにする。その3種類のキャベツの中から、「値段」「量」「品質」の視点で自分の家庭に合わせて、どれを選ぶのか、まず自分なりの考えをもつ。グループの中で仲間がどういふ視点で選んだのか、どういふ根拠で選んだのか等グループ内での考えを比較、検討する場を設定する。視点シールで自分の視点を明確にすることにより、相手と視点が同じなのか違うのかわらなくなり、意見を取り入れたり、アドバイスをしたりしやすくなる。と考える。

③関わり方の指導

どんな点を意識して野菜を選んだのか、理由を明らかにし仲間と交流する中で、自分の考えに取り入れられたり、自分の考えとの違いを感じたりするように声をかける。

交流では、「じょうずに使おうお金と物」で学習した視点カードを基に、「〇〇という事を大切に選びました。わけは・・・」等という話型で話すように確認する。自分の立場を明確にし、仲間に伝えることでお互いの考えが伝わりやすくなる。と考える。

【研究内容Ⅲ】

①評価の工夫(自己評価力の育成)

キャベツや野菜を選んだときに、ワークシートに視点シールを貼る。キャベツを選んだ時の視点シールと、自分が選んだ野菜について考えたときの視点シールを比べることで、1時間の中で視pointsの深まりや広がりの変容が一目で分かるようにする。また、「〇〇さんの意見を聞いて・・・」という書き出しにすれば、仲間との交流をする中で、自分の変容を自覚できると考えた。また、「今までは・・・」という書き方をする。ことで、自己の変容を自覚できるようにする。